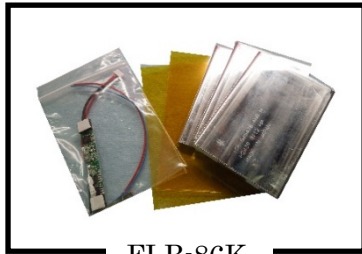
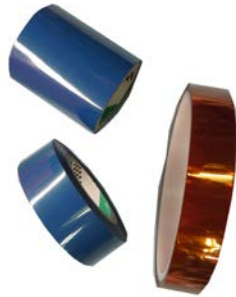


FLB-86K (キット) 組立手順書

① 部材



FLB-86K



② 工具

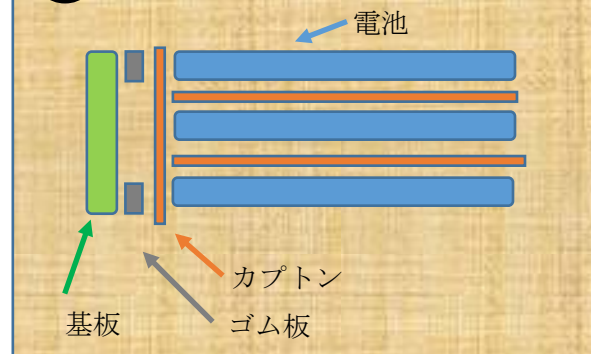
FLB-86K キット (左) カプトンテープ 25mm 幅とポリエチレンテープ 25(30),50mm 幅及び半田、すずメッキ線、はさみ、ニッパ、ワイヤーストリッパ、半田ごて と カッターナイフ (写真なし) はキットに含まれていませんので別途調達してください。

(ポリエチレン 50mm 幅は 25(30)mm 幅で代用可能ですが、外見は 50mm 幅が良い)

③ 手順

電池の両面カプトン貼付 →
電池の貼合わせ → 電池の半田
接続 → リード線の半田付 →
基板の装着 → 基板とリード線
の半田付 → 絶縁テープ処理 (2
回) → ラベル貼 → 完成

④ 構造



⑤ 保護フィルム片面の剥離

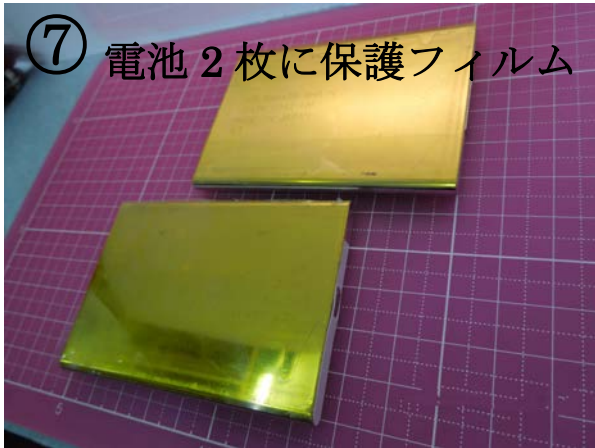


保護フィルムはテープの両面にあります。カッターナイフを使用し、持ち上げたならばすぐ折り返すと、指ではがしやすいです。

⑥ カプトンフィルムの貼付

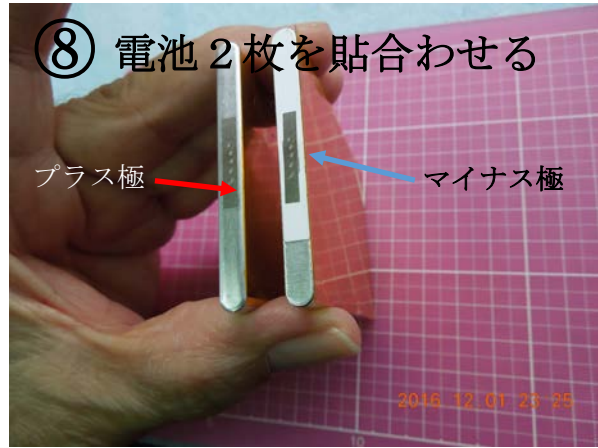


気泡が入らぬよう、指で押さえつけながら貼ります。周囲は切り落としますので気泡が入ったら持ち上げて追い出しながら貼ります。



⑦ 電池 2 枚に保護フィルム

電池 2 枚に両面カプトンテープを貼ります。
電池のどちらの面に貼っても構いません。
次に、電池に貼った保護フィルムを剥がします。



⑧ 電池 2 枚を貼合わせる

剥がした面と、2 枚目の電池のアルミ面を
写真のように極性に注意して貼り合わせます。
ずれないように位置合わせに注意してください。



⑨ 電池 3 枚を貼合わせる

写真では、<-><+><->と 3 枚の電池
が重なっています。(反対から見れば+-+)



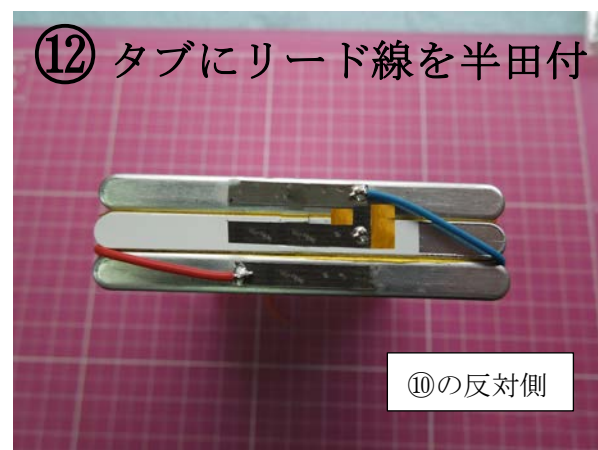
⑩ 電池タブに予備半田

半田付ポイントの下にカプトンテープを貼り
その後すずメッキ線を半田付けします。
※写真はすずメッキ線の代わりにニッケル板使用



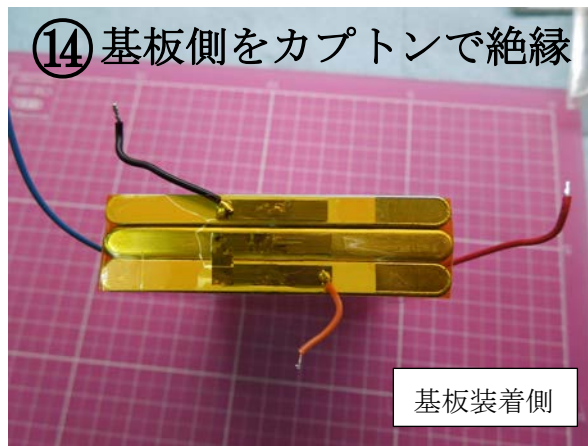
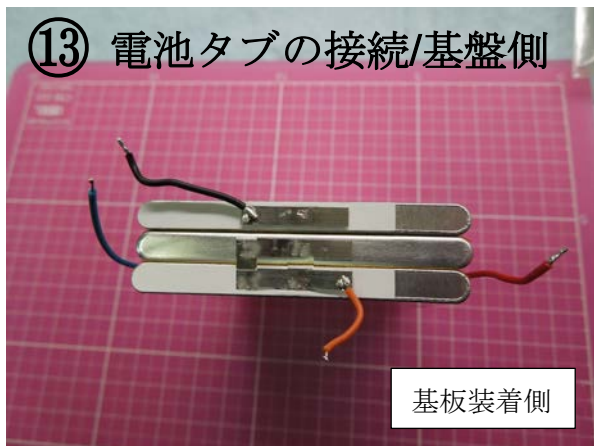
⑪ 電池タブの接続

ショート事故をさけるために、切り取った
カプトンテープで保護して作業します。 <<-極にはできるだけ熱が伝わらないよう配慮>>

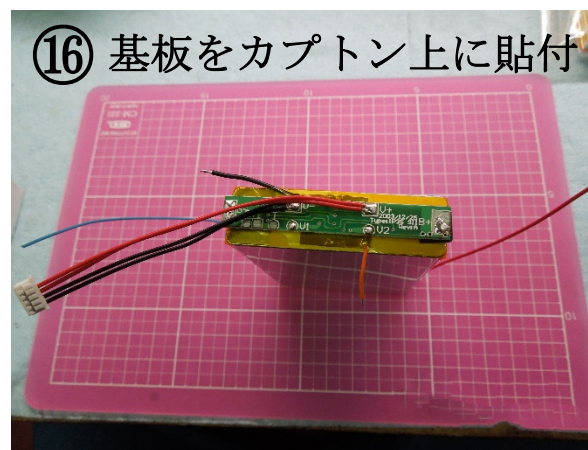


⑫ タブにリード線を半田付

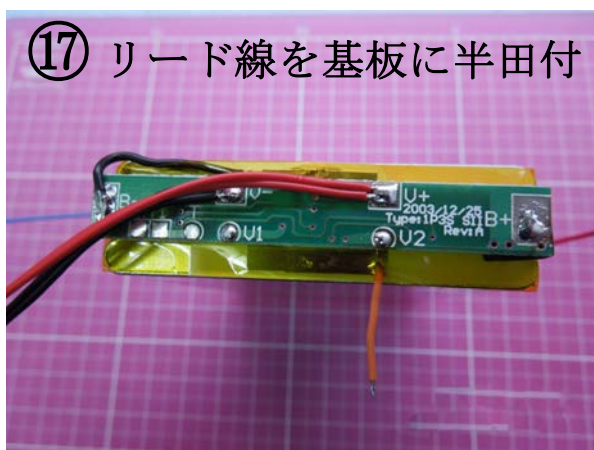
タブにリード線を半田付けします。



引き出したリード線の先端は露出していますが、半田付けまでビニルテープなどで保護してください。



キットでは、あらかじめ基板にゴム板は張り付けてあります。温度ヒューズは電池側にきます
基板上の半田付けすべき端子は、すべて上にきます。

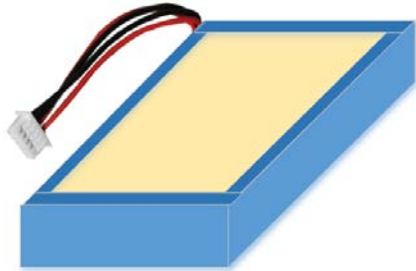


まず、黒 (B-) → 青 (V2) → 続けて

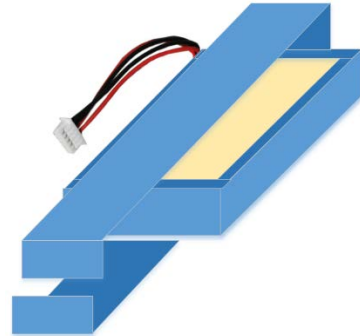
橙 (V1) → 赤 (B+) の順に半田付けします

作業中リード線先端はテープで保護し目的位置以外に絶対に触れないようにしてください。
保護基板を破損するばかりか、バッテリー短絡・発熱 事故に速結します。

⑱ 絶縁テープ処理 1



⑳ 絶縁テープ処理 2



⑱⑳のようにカプトン 25mm とカプトン 50mm でようにテープを巻いた後、さらに青色のポリエチレンテープで同様にもう一回巻いて 2 重に保護します。万が一、保護テープに損傷を認めた場合は、直ちに保護テープを交換してください。

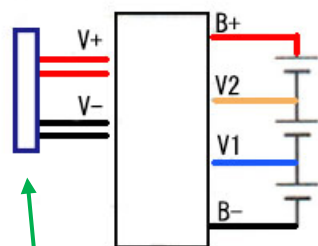
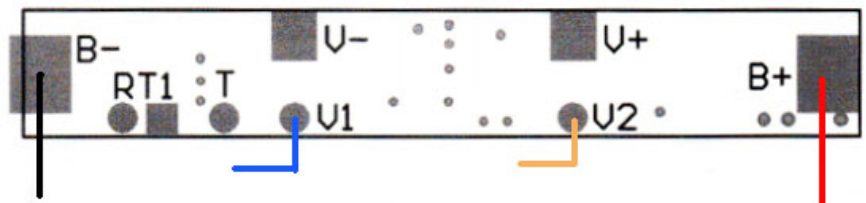
㉑ 保護基板のリセット

電池コネクタのプラス側（赤色）とマイナス側（黒色）にテスターをあてて 11.1V 前後の電圧が出ていれば、次のリセット動作は不要です。

【リセット方法】1k Ω を通じてコネクタに 12V を一瞬加えると保護基板はリセットして、約 11.1V 前後の出力電圧が現れます。リセットしても電圧が現れない場合は、基板もしくは配線の不良ですので、至急点検修正が必要です。※バッテリー使用中に保護回路が働いた際も、充電すればリセットします。

リード線長	コネクタリード線長	※測定は先端（コネクタ含む）から先端まで
青 120mm	赤 80mm	
赤 110mm	黒 62mm	被覆剥離長は 2mm 程度
黒 32mm		
橙 20mm		

㉒ 補足説明



保護基板とバッテリーの接続図

FT-817 接続コネクタ

！！中央がマイナス極ですよ！！

電池外装のアルミはすべてプラス極です

2017.03.29 Shop6502 FLB-86Kman Ver 1.02